上の畑焼陶芸センター

上の畑焼陶芸センターの棚には、桃・仏手柑・ざくろの模様で飾られたコバルトブルーと白の繊細な磁器が並んでいます。これらの簡素で優雅な作品は、尾花沢地域の磁器である「銀山上の畑焼」の美学を体現したものです。

上の畑焼は、1833 年に尾花沢で窯が開かれたとされるものですが、長くは作られませんでした。この磁器を焼くのに使う野外の窯を、当地の厳しい冬に維持することは難しく、窯はわずか 10 年後には放棄されてしまいました。この焼き物は、ほぼ 150 年後の 1980 年に、地元の陶芸家である伊藤瓢堂 (1952 年～) によってよみがえりました。上の畑焼には、多くの場合、「三多紋」がほどこされています。三多紋は、3 つの象徴的な果物を模した伝統的な模様です。桃は長寿を表し、ざくろは多産を表し、 仏手柑(指の形をした柑橘類) は幸運を表します。

上の畑焼陶芸センターでは、食器、花瓶、またその他の作品が購入できます。訪れる人たちは、自分の上の畑焼に絵付を行う絵付教室や、陶芸教室にも参加できます。